

11月11日～12月10日

人権を考える強調月間です



人権機関有田川では毎年、人権意識の育成と高揚を図ることを目的に、人権啓発標語を募集しています。

今年度のテーマは「家族（かぞく）」。小学生の部450点、中学生の部666点、一般の部30点の応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございました。

優秀作品をご紹介します。

●小学生の部
最優秀賞
「やめなさい。」私をしかる
母の想い。

人権啓発標語優秀賞作品

●小学生の部
最優秀賞

「やめなさい。」私をしかる
母の想い。

藤並小学校6年 池奥莉緒
話を聞いてね 聞かせてね
会話でつながれ 家族の絆
御霊小学校6年 榎本千洋

●中学生の部
最優秀賞

小言言う 言葉の中に 父母の愛
吉備中学校3年 深瀬奈々

優秀賞

スマホ置き 家族の会話
増やそうよ

●一般の部
最優秀賞

家族から 輪が広がって 社会の和
中井原 向林洋子

優秀賞

思いやり 態度で示す 家族から
中井原 向林義郎

篠原信一氏の講演会に参加して 人権機関有田川委員 杉澤純次

2000年、シドニーオリンピックのテレビ放送を毎日欠かさず見ていた。柔道100キロ超級の決勝戦、ルールをあまり知らない私ですが、両者同時に倒れたのを見た時、解説者が「篠原選手の技が決まって二本勝ちで優勝」と叫んだのが、今も記憶に残っています。しかし、これが世紀の大誤審と騒がれ、篠原選手は劣勢負けとなったのである。篠原選手は講演会の中で



「これは審判の責任では無く、自分がきれいに技を決められなかったことに負けた原因がある」と語り、悔しかった思いを語りました。

また、大会前の裏話もユーモアを交え語られました。試合の前日や前々日に練習をするのですが、もちろん練習相手は国内の同じオリンピックに参加している選手で、練習中に怪我をしないよう気配りをしながら練習をする訳ですが、相手選手は自分自身の調子を見極めるために篠原選手を目一杯投げ飛ばしたと言っていました。

しかし篠原選手は「もし、今練習相手に怪我をさせたら、この選手のオリンピックが終わってしまう」と思い、自身はぎこちなく練習をしたのが本番に出てしまい、後半になって「自分が負けているのを知り焦ってしまった」と語られていました。これらの話を聞き、私は篠原選手が「優しい方」だと強く感じました。

私たちは、今相手のことを思っているか、時々思い考えることがありますが、近年はその場がすぐに終わる次の場に移るのが早く、振り返る時間が少なくなっていると感じます。「人生焦らず」が大事だ」の思いを忘れずに過ごしたいと思います。

お知らせ

人権特設相談所

11月17日(木)、人権特設相談所を開設いたします。相談は無料で、秘密は厳守されます。

- 場所 / 清水行政局
- 時間 / 13時～16時
- 人権のつどい

12月4日(日)「人権のつどい」が開催されます。

- 場所 / きびドーム
- 日時 / 13時～16時
- お申し込み・お問い合わせ先 / 有田振興局総務課 64・1257

人権に関する問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課
TEL 52212111
FAX 3214827